

障がい等地域支援ブロック会議報告(平成26年11月～平成27年4月)

月	参加機関数	参加者数	担当機関名	事例の概要	検討項目	意見	課題
11	13	16	ぷりずむ	自閉症の息子と認知症の母親およびその家族との関わりについて	①本人の余暇活動の充実について ②今後の支援の方向性について(本人の立場と母親の立場を踏まえて)	①移動支援で、外出。回数を重ねることで、顔つなぎしてみる。 他の家族の協力を得て、車で外出を試みる。 ②母:本人をまだ家でみたい、他の家族:本人を施設に入れたいと、意向は違うものの、少しずつ慣れてもらい、本人の希望と母の納得は必要だが、グループホームで生活・週末は帰宅を考えてみる必要がある。	
12	16	19	神原苑	「要望の多い利用者との関わりについて ～高次機能障害を持つ精神障害の方とその母への支援について～」	①本人の思い(こだわり)とどのように向き合っていけば、迷惑行為、他害行為にならないような援助するにはどうしたらよいか。 ②母亡き後、本人が社会で安心して暮らせるために、今から必要な援助は何か。	①脳梗塞からくるものか、知的に低かったり、ADHDの傾向があったのか…それによって治療がちがってくる。攻撃性・衝動性は薬物療法で少しは抑えることができる可能性もあるので、医療機関に状況を伝え相談してみる必要がある。 母に対する心理的サポートを役割分担する必要がある。 ②母亡き後、独居なのか、兄弟がみるのか、施設入所なのか、可能性として考えておかないといけない。生活能力を確認しておく必要がある。	
1	69	205	第15回 障害支援者交流のつどい タイトル:大人の発達障害とは!? 『個性を生かして、地域で生活して行きたい』 ～私たちができる支援を考える～	アンケートの意見より ・成人以降、単なる非能力者等のレッテルのまま、周囲に評価されている人が多くいる可能性を知る事ができた。 ・発達障害の方の特徴を良く理解して対応する事が大切、という事が分かった ・個性を生かせるように目を向ける事は大変だと思うが、そのように意識づけできるよう支援の中に取り組んで行きたい。 等 ⇒多かった意見としては、「専門用語が多かった。」、「知らなかった。」などがあり、支援者の立場の方々でもまだまだ知られていない、理解されてない現状があるかもしれない。 今後も理解して関わっていければと思う意見もあり、発達障害について考える機会になった、今後も研修会など開催してほしいという意見もあった。	発達障害について、今後も理解をしてもらうため啓発を続けていく必要がある。		

月	参加機関数	参加者数	担当機関名	事例の概要	検討項目	意見	課題
2	17	19	障害福祉課	視覚障害と人格障害的な言動がある方の今後の支援について	①もめごとを起こして関わりを持つとする人で、度々言う事が変わり、関係機関が振り回される。真意をつかむためにはどうすればよいか？ ②対人関係がうまくいかず、集団生活にもなじめない。家族の支援や在宅サービス調整、施設入所が困難な方への対応。支援に入れるようになるためには？	質問の方法の工夫が必要。 この人がどんな人かつかむため、家族から生育歴を聴取する。 窓口に苦情を言いに来るときは要求が増幅している時。本人が安定している時に訪問し話を聞く。 警察や保健所との連携が必要。 対応する人によって対応が変わらないように統一する。 ⇒こういったケースは突然死になることが多いため、見守り訪問必要。(誰が行くかは検討)	
3	14	16	あゆみ	「今の状況は何とかしたいけど、どれも選択できない！」～知的障害あり、就労継続支援A型の利用、職員に合わない方がおり、その人を辞めさせてほしいと訴える方への対応について～	本人の口に出す思いは、同じ職場の職員を辞めさせてほしい事。辞めさせるのは無理なため、他の作業班への提案もするがそれも嫌がる。自分が辞めるのも嫌がり、話が進まない。この状況が続けば就労継続支援A型雇用も難しくなってくるため、どのような方向で支援をしていけば良いか。	本人の言うことは、ワガママの部分のようなので、時間をかけて本人の気持ちが反れるのを待つ。 特定の職員から注意を受けない様、環境を整える。 作業能力はあるかもしれないが、対人能力などはどうか、能力の確認をする。 就労継続支援Aを続けるか、Bに変更する。	
4	31	40	障害福祉課	知的障害のある親子への支援について～母の介護保険移行にむけて～ * 障害福祉サービスから介護保険への移行事例のため、高齢者総合相談センター(地域包括支援センター)へ出席を案内した。	①母のサービスが、2年後には介護保険制度へ移行しなければならない中、それまでの間にどういった課題が考えられるのか。 ②これまでの支援体制が、制度の移行により確保できないとしたら、どういったサポートが考えられるか。	①食生活や健康状態が気になる。配食サービスの検討必要。サービスの継続の中で、自分でもやってみる体験を積んでもらう。金銭管理では権利擁護事業の利用を情報提供。 ②障害福祉サービスから介護保険サービスへ移行されると、一部変更内容があり、混乱される。介護保険と障害福祉サービスの併給はどこまでできるのか。 親子で一緒に入れる施設があるとよい。 インフォーマルサービスの活用や民生委員の見守りなども検討。	H26年度より、継続課題「障害福祉制度から介護保険制度への移行」について、調整がうまくいっていない状況がある。 ⇒高齢者支援関係者と障害福祉関係者ともに、お互いの制度を理解していく。 今年度、高齢のブロック会議、2か所に障害福祉関係者が参加する予定。